

つくいじょうあと(すみがま)

## 津久井城跡(炭窯)

(相模原市城山町No.8遺跡)

調査期間 20090501～20090615

所在地 相模原市城山町小倉

時代 近世



作成日：20090624

## 概要

津久井城跡は津久井土木事務所による津久井広域道路整備事業に伴い、その事前調査として調査を実施しました。

今回の調査は城跡本体ではなく、その南麓に存在する炭焼窯の調査でした。

遺跡は相模川の支流である串川の北岸で、南に開いた小さな谷の東斜面、標高は165m程のあたりに位置しています。

窯は横穴式土窯(よこあなしきどがま)と呼ばれるもので、前庭部(ぜんていぶ)・焼成室(しょうせいしつ)・煙道部(えんどうぶ)から構成されています。

窯体(ようたい)は5基発見されました。その内3基は前庭部から焼成室・煙道部まで残っていましたが、1基は奥壁部分のみ、もう1基は焼成室と煙道部が残っていました。

窯体は重複関係を有していて、同時期存在が伺われるものではなくすべてが時期を異にするものと考えられます。

残りの状態が良好な3基のうち2基は3回の、1基は1回の炭焼きを行ったことが、焼成室内に堆積した炭化物・焼土層により確認できました。この焼成室内の堆積状況から判断すると1回の炭焼きを行った後、製品としての炭を焼成室から取り出した後内部の清掃を行わず、炭焼きによって発生した焼土・灰・炭化物片などの堆積層の上で新たな炭焼きを行っていた状況が伺えました。ここで焼かれていたのは、いわゆる黒炭であったと考えられます。

陶磁器類などの出土遺物は全くありませんが、製品の断片であると見られる炭の小破片が焼成室内・前庭部に多量に残されていました。また1基の炭窯からは、炭焼きを終えた後に窯体内に堆積した覆土の中から、人間のものの一部と見られる骨が出土しました。また、前庭部の一部からは富士山の宝永山噴火(1707年)で噴出された火山灰が発見されました。陶磁器類など、年代決定のための参考となる遺物が出土していない中で、この炭窯の時期の手がかりになる貴重な資料なので自然科学的な分析を実施して、この火山灰



▲1号窯 煙道部石組み



▲1号窯前庭部調査状況



▲2号窯

の正体を明らかにする予定です。



▲5号窯